

水害について知っておこう

高槻市で起きた過去の風水害

高槻市では、過去に大きな水害が発生しています。過去の被害を教訓として、災害に備えましょう。



▼大正6年(1917)10月1日 大塚切れ

淀川の決壊によって流れ込んだ濁流が芥川をも巻き込み、当時の高槻町だけではなく、三箇牧・鳥飼地区へと流れ込み、淀川右岸一帯で約15,000戸の浸水・流失家屋が発生するなど大きな被害をもたらしました。



▼昭和28年(1953)9月25日 台風第13号による洪水

芥川と女瀬川との合流点付近で約150m決壊、淀川より芥川を逆流してはん濫し、当時の富田町、三箇牧村、味生村一帯が浸水したほか、檜尾川では約60mの堤防が決壊しました。この洪水により、全壊297戸、半壊30戸、床上浸水467戸、床下浸水7,926戸の浸水被害が発生しました。



▼昭和42年(1967)7月9日 北摂豪雨

北摂地方を中心に発生した集中豪雨で、梅雨前線による影響で24時間あたり225mmもの雨が降り、全壊2戸、半壊16戸、床上浸水707戸、床下浸水6,559戸という浸水被害が発生しました。女瀬川では堤防が決壊しました。



▼平成24年(2012)8月の豪雨

最大で時間降雨量110mmという豪雨があり、床上浸水247戸、床下浸水597戸という浸水被害が発生しました。



▼平成30年(2018)7月豪雨・9月台風第21号

西日本を中心に全国的に広い範囲で発生した台風及び梅雨前線等の影響による集中豪雨(平成30年7月豪雨)があり、高槻市内では、がけ崩れ12ヶ所や道路冠水16ヶ所等の被害が発生しました。その後、9月に発生した台風第21号では、北部山間地域で大規模な倒木被害が発生しました。

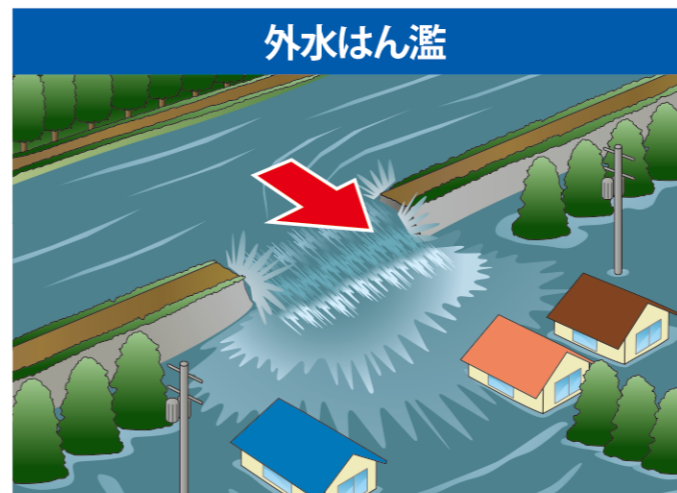
●大塚切れ洪水記念碑

大塚町にあるこの碑には、大塚切りに際して、数万人にのぼる人々が力を合わせてせき止め工事を行い、大水害から復興した経過が示されています。

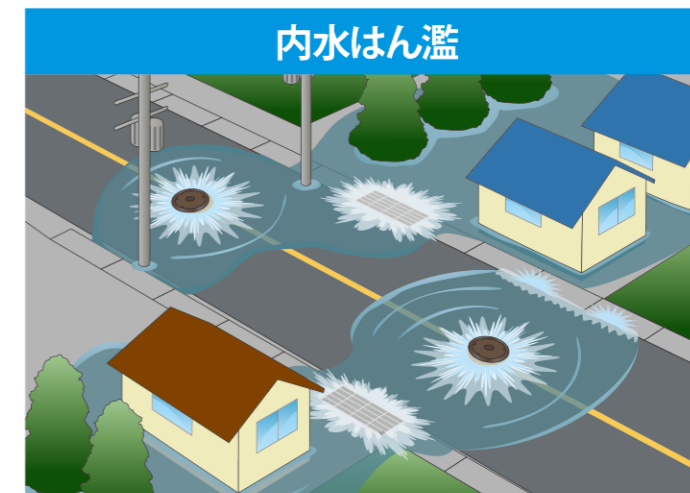
この碑文には、後世への戒めとして、「居安必勿忘危(安楽に暮らしていても、絶対に危機のあることを忘れてはならない)」と刻まれています。*大判マップ(全河川・淀川・芥川)参照



外水はん濫と内水はん濫



長時間雨が激しく降ると、河川の増水により堤防が壊れたり、堤防から水があふれ出して浸水します。また、その付近で雨が降っていないくても、上流で降っていれば、河川が増水し、同様に浸水する危険性があります。



短時間に集中して降る豪雨等により、水路や下水道の排水能力を超えたり、河川の水位上昇により十分に排水できなくなると、マンホールや側溝から雨水があふれ、住宅地や道路などが冠水します。

家屋倒壊等はん濫想定区域

これらの区域では確実に
早めの立退き避難をしてください

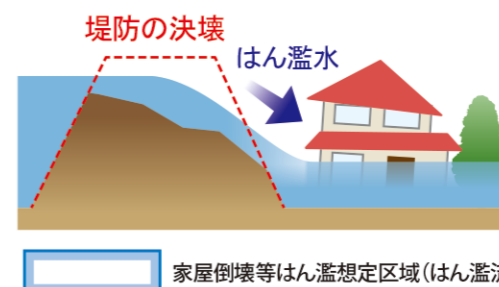
家屋倒壊等はん濫想定区域
(はん濫流)

家屋倒壊等はん濫想定区域
(河岸侵食)

洪水時にははん濫流や河岸侵食により、家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい流れが発生するおそれのある堤防沿いの地域を「家屋倒壊等はん濫想定区域」としています。これらの区域では、自宅等が倒壊するおそれがあることから、浸水区域外への立退き避難が必要です。

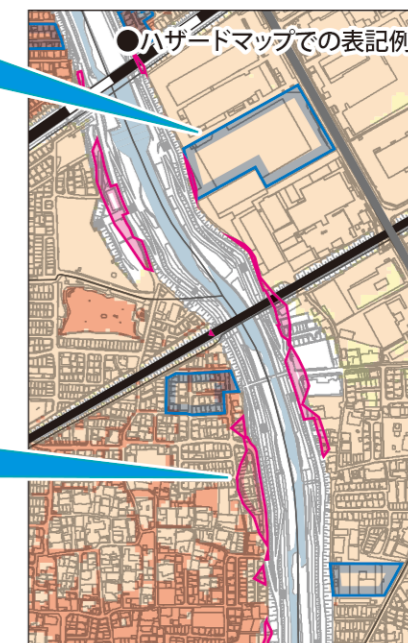
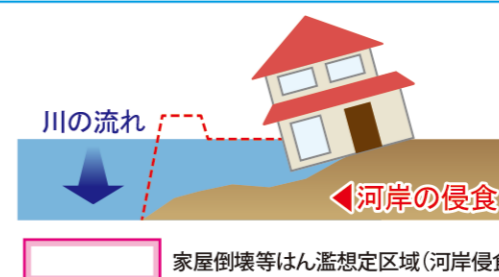
はん濫流とは…

堤防が壊れ、河川から流れ込む水の力により、激しい流れが起きることを「はん濫流」といいます。はん濫流により、一般的な木造住宅が、倒壊・流失するおそれがあります。



河岸侵食とは…

川の流れにより河岸が削られる現象を「河岸侵食」といいます。河岸侵食により、侵食範囲にある家屋が倒壊するおそれがあります。

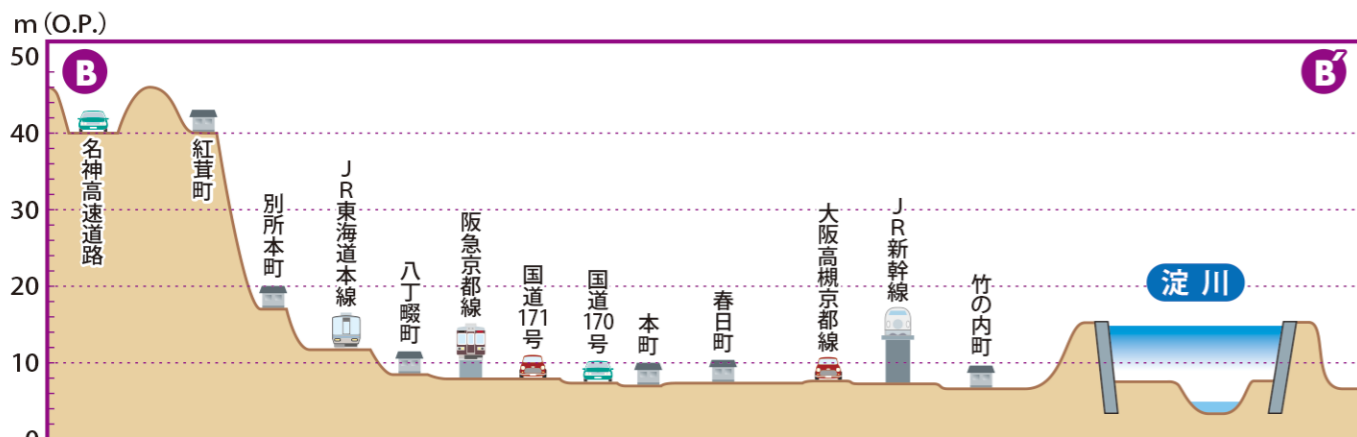
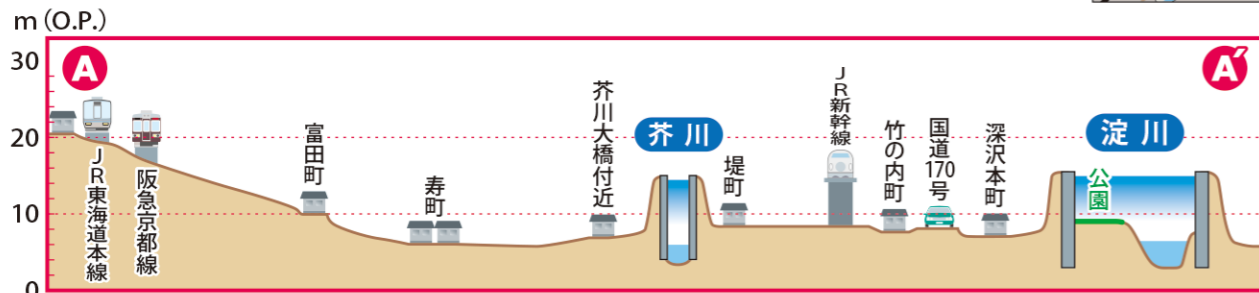


水害について知っておこう

高槻市の地形と標高

高槻市の地形は、名神高速道路より南側は、平野部に市街地が広がっています。市内平野部を流れる河川は天井川(住んでいる場所よりも川底の方が高い河川)となっているところもあり、水害の危険性が高くなっています。

JR東海道本線より南側の平野は、各河川の堤防高より低いいため、はん濫時には大きな被害になる危険性があります。



※高さの基準は「O.P.(大阪湾最低潮位)」

淀川がはん濫したとき

高槻市内とその周辺には、右図に示す6つの一級河川(淀川、芥川、女瀬川、檜尾川、安威川、水無瀬川)が流れています。このうち、淀川がはん濫した場合、浸水域は最大で市街地の約半分に及ぶと想定されており、大きな被害が発生する可能性があります。



淀川がはん濫するような大規模水害の可能性が高まった場合は、浸水しない安全な場所へ早めに避難するなど備えてください。避難先などは、「●早めの避難をお願いする場合(P30)」を確認しましょう。

雨の強さの表現と降り方(1時間雨量)

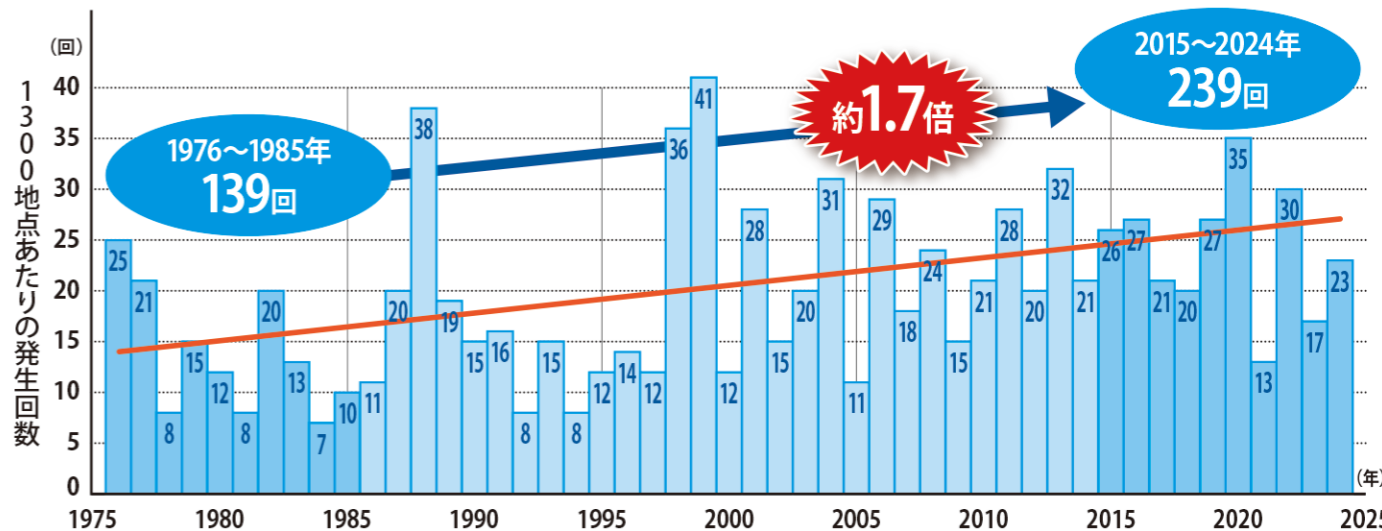
| | やや強い雨 | 強い雨 | 激しい雨 | 非常に激しい雨 | 猛烈な雨 |
|-------------|-------------------|--|--|---|-------------------------------|
| 1時間雨量と予報用語 | 10~20mm未満 | 20~30mm未満 | 30~50mm未満 | 50~80mm未満 | 80mm以上 |
| 人の受けるイメージ | ●ザーザーと降る。 | ●どしゃ降り。 | ●バケツをひっくり返したように降る。 | ●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く) | ●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。 |
| 人への影響と屋外の様子 | ●地面からはね返りで足元がぬれる。 | ●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。 | ●傘をさしていてもぬれる。 ●道路が川のようになる。 ●高速道路を走行時、ブレーキが効きにくくなる。 | ●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 ●車の運転は危険。 | |

※気象庁資料参照

近年の雨の傾向に要注意!!

近年、いわゆるゲリラ豪雨といわれる雨が多発しております。グラフは全国で発生した時間雨量80mmを超える雨の年間発生回数を示したものです。想定を超えるような猛烈な雨が増加傾向にあることがわかり、大規模な浸水被害が発生するおそれがあります。

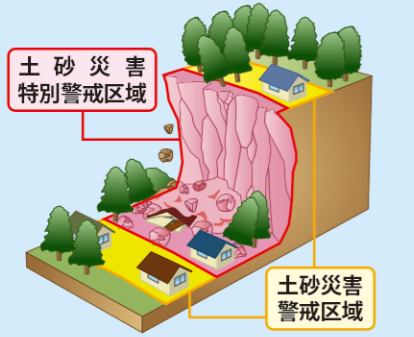
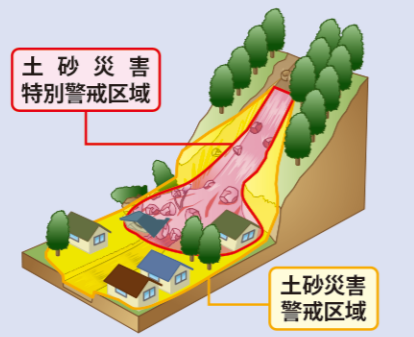

〈アメダス〉1時間降水量80mm以上の年間発生回数 ※気象庁HPより
1976年から2024年のデータを使用



どしゃさいがい し 土砂災害について知っておこう

どしゃさいがい しゅるい ぜんちょうげんしょう 土砂災害の種類と前兆現象

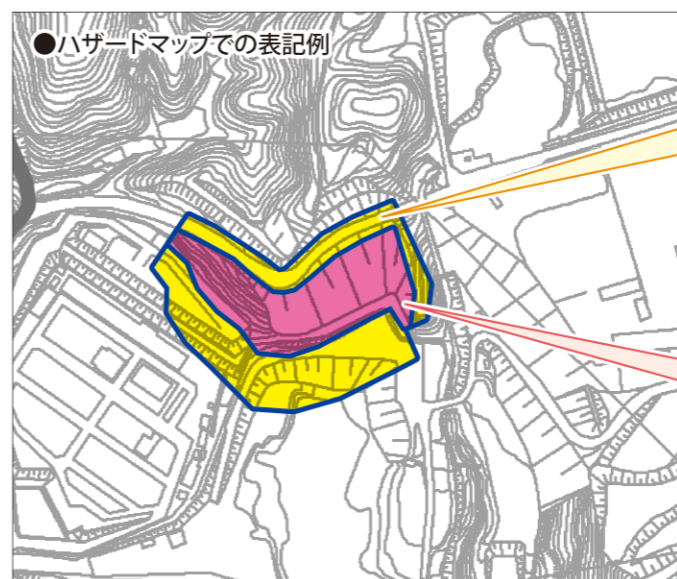
大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。下記のような前兆現象を確認したら速やかに避難してください。

| がけ崩れ(急傾斜地の崩壊) | 土石流 | 地すべり |
|--|--|--|
| <p>地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。</p>  | <p>長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。</p>  | <p>大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだす現象です。</p>  |

| こんな前兆現象に要注意!! | こんな前兆現象に要注意!! | こんな前兆現象に要注意!! |
|---|--|---|
|  <p>斜面にひび割れができる。</p> |  <p>雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。</p> |  <p>がけから出る水がにごる。</p> |
|  <p>わき水の量が増える。</p> |  <p>地鳴りの音が聞こえてくる。</p> |  <p>地面にひび割れができる。</p> |
|  <p>がけに亀裂が入る。がけから小石が落ちてくる。</p> |  <p>川が濁ったり、流木が混ざりはじめる。</p> |  <p>斜面から水が噴き出る。</p> |

※上記のような現象が前兆現象のすべてではありません。また、前兆現象がない場合でも土砂災害が発生することもあります。

どしゃさいがいけいかい くいき どしゃさいがいとくべつけいかい くいき 土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域



土砂災害警戒区域とは…

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域とは…

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

どしゃさいがい かん ちゅうい ほう けいほう 土砂災害に関する注意報・警報

詳しくは… [大阪府土砂災害の防災情報](#) 検索

土砂災害に関する注意報・警報は、土砂災害発生の危険度が高まったとき、気象台が発表する情報です。



警報等が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、市からの情報を入手して避難してください。

また、警報等が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報などにも十分注意しながら、避難行動をとってください。

土砂災害時の緊急安全確保

土砂災害では、避難場所等への立退き避難が基本です。土砂災害は、突然発生することが多く、起きてから避難するのは危険です。木造住宅が流されるほどの力があるため、屋内で安全を確保できないこともあります。逃げ遅れるなどして避難場所等への立退き避難ができない場合は、がけなどの反対側の2階以上や、がけから離れた部屋に移動しましょう。

土砂災害の災害リスクがある区域は、立退き避難が基本!

逃げ遅れるなどして 屋外への移動が困難な場合は…

